

神奈川県立子ども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

203号 2020年9月号

発行 神奈川県立子ども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

ホスピタルクラウンが来た！



ホスピタルクラウングループ代表 小峰健太郎

8月11日(火)、半年ぶりにクラウンが訪問をさせていただきました。神奈川県立子ども医療センター様には、2008年から定期訪問させていただいています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日本ホスピタル・クラウン協会では設立から初めて2020年2月末から活動自粛をしました。そんな中で、感染症対策をした上で外来の子ども達のところへ来て欲しいとお声がけをいただき、半年ぶりの訪問が実現しました。

いつもは、隔週で4名のクラウンが午前と午後に病棟や外来を訪問して 子ども達と楽しい時間を過ごしています。今回は、感染症対策として午後の短時間のみ、2名のクラウンがマスクを着用して、子ども達との接触を避けながら、総合待合にてパフォーマンスをしました。ショーは、マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスを楽しく伝える内容にしました。

最初は、密集密接にならないようにクラウンが細心の注意を払っていましたが、皆さんが自主的に密にならないよう、周りの方やクラウンとの距離を保ってくれている様子を拝見しました。この半年間、大人だけでなく子ども達も他人との距離を置き、我慢の多い毎日を過ごしていたのだらうと思います。そんな子ども達が、手を叩いたり、笑ってくれたり、病院に行くことができ良かったと感じました。

ショーの最後には子ども達も大人も皆さんが拍手してくださいました。ショーを観てくださった皆さんありがとうございました。今回、訪問をさせていただき、クラウンが病院を訪問して子ども達の笑顔を引き出すことの必要性を改めて感じる良い機会となりました。闘病中の子ども達、ご家族、職員の皆さん、病院にいる全ての方々に安心して笑っていただけるように、これからも工夫を重ね活動をしていきます。

また遊びに行きます。次にお会い出来るのを楽しみにしています。

(これからの活動は月1回第2火曜日午後の予定です。)

外来ボランティアの新しい活動

小磯 理香

「手指消毒をお願いします。」正面玄関を入ると自動音声が流れています。入館する方は手指消毒をして問診票を記入し検温を受けます。これは新型コロナウイルス感染症対策で行われていることです。

外来ボランティアの新しい活動のひとつとして、混み合ってしまう入り口での整列等の呼びかけや問診票記入の案内をしています。また記入用のバインダーやボールペンの消毒作業もしています。入館のチェックを受ける前の方々と接するのでフェイスシールド、マスク着用での活動です。安全のために着けているのですが、小さいお子さんには不思議そうに見られたり、ギョッとした顔で見られたり、まじまじと見られたりします。

この夏の暑さで、フェイスシールドが曇ってしまい汗だくで活動していると「だいじょうぶですか?」と優しい方に心配されたりもしました。大変ですが無理のない範囲でボランティア同士、協力しあって行っています。正面玄関に置かれていたストーブがサーキュレーターになり、またストーブの季節になっても、しばらくは続くことなのではないかと思えます。

なかなか収束の兆しがみられなくて、今までのような活動ができないと、思い悩んでいたのですが、活動の手引きに書かれていることを読み返してみました。

【外来ボランティアは、こども医療センターを受診されるお子さんと、ご家族が安心して気持ちよく受診して帰ることが出来るようにサポートすることです。】

そうだった！出来る範囲でサポートできればと改めて思いました。

(写真はフェースシールドと、男性ボランティアです。)



9月9日から、いよいよぼぼんたの本の貸し出しが始まる。子ども達の笑顔と食い入るように絵本を見ている姿を想像して、自然にほほが緩む。ぼぼんたのメンバーはそれぞれ自分で判断して、参加、不参加をきめた。

コロナ感染への恐怖は誰も同じだ。だから、オレンジクラブの「新しい生活様式」に従って、自分の動き方を考えなければならない。

8月26日(水) 加藤コーディネーターと共に久しぶりに病棟に入った。貸し出し本のケース設置場所を決めてもらうためだ。どの病棟も看護師さん・保育士さんが「やっとなです」など、声をかけてくれ、優しく迎えてくれたのはとても嬉しい。それぞれ病棟の都合があるのに、小さなケースだからどこにでも置けるだろうと簡単に考えていた自分が恥ずかしい。約1時間ほどで貸し出し予定の7病棟を回り終えた。

本の貸し出しはスタートしてみなければ、どうなるか分からないが兎に角やってみよう。そしてその度に、良かったこと不都合な事を話し合っ解決して行こう。

今起きている事から～

*外来の方で、活動後に軽度の熱中症の方がおられました。「活動中とても暑く感じ、その後汗が止まらず、少し頭痛もありました。2時間程の活動時間ですが、コロナの事があるまでは、正面玄関の外で立ち続ける事がなかったので、自分でも気をつけなければと思いました。」と報告を頂きました。

➡9月も暑さ対策が必要です。フェイスシールドやマスク、また照り返しなどがあり体温が上昇します。水分補給だけでなく、時々身体を冷やし、休憩取りながら活動しましょう。体調が悪くなりそうな時は、早めに近くのボランティアさんか総合案内の方に声をかけて下さい。

*園芸は、毎週火曜日活動しています。8月猛暑の中、脱水症を心配しながらの活動でした。そして花たちも炎天下の屋上で必死です。人間にとっても草花にとっても過酷な夏です。それでもけなげに咲いています。(写真1)

*火曜日の午前中、総合待合で高野さんがピアノ演奏をしています。ちょうどいい距離で、お子さんたちが生のピアノ演奏を楽しんでいます。月曜日は、きょうだい預かりの保育士も演奏しています。

*患者図書が再開して、静かに閲覧している患者さんご家族の様子は、以前に戻りつつあります。

*重心施設の作業の方は、火曜日と金曜日に活動しています。

*外来の折り紙作品に患者様から頂いたアイロンビーズの作品も一緒に並んでいます。人気です。ごきょうだいの方の分も差し上げるようにしています。

*何回か訪問に来てくださったスターウォーズファンで活動する日本部隊の方から写真を頂き、本館から管理棟への通路に飾りました。(写真2) また、同じ並びにインドやタイやスリランカなど海外のお子さんの絵が飾られています。(写真3) 楽しんでください。

(写真2)

(写真1)

(写真3)



With コロナの視点での病院ボランティア

ボランティアコーディネーターの立場で、「With コロナ」を考えるが、一筋縄ではいかない。

正面玄関での活動も、この時期活動していただいているのか？また、活動方法や内容はこれでいいのかと迷う。毎月 1 回外来ボランティアのミーティングがあり、外来の看護科長や総務課ボランティア担当も参加してミーティングを行っている。本来ボランティアは全体を見渡し、お困りの方がいないか、危ないことはないか、迷子はいないかなどの活動をしている。今は、感染予防の為に拭き掃除や会計カードのファイルの消毒の手伝いをしている。感染制御室に聞くと「やらないよりはやった方がいいが、感染しないためのものではない」と。ボランティアの方々の意向も聞きながら調整する。

『ボランティアがコロナに罹ったら、保証はあるか？』と聞かれた。そこで横浜市ボランティア活動の保険制度を検索してみた。特定感染症として新型コロナウイルス感染症が 4 月から補償の対象になっていた。コロナ禍の中でもボランティアの必要性を確信する。

ぽぽんたの皆さんが、9 月から本の貸し出しを始める。本を選定しケースに入れ病棟に届け、返却した本を消毒する活動である。本を届け返却本を持ち帰る作業は 10 分もかからないが、病棟に入る。半年ぶりであり、自分が持ち込むことへの不安がある。尤もなことで、目に見えず、無症状でも感染している人がいる中で入って良いのと思うのは当然である。感染制御室に確認した。「手順をしっかりと下さい。① 健康チェックをする ② 活動前に手を洗う。手洗いの方法に沿ってしっかりと行う。③ マスクをきちんとした付け方で使用する ④ 10 分間の入棟は時間的にも大丈夫。」と指導を受ける。手洗いの方法とマスクの付け方の方法がボランティア室や活動する場所の目につく場所にあるかを再確認した。

助言をもらったものの、不安がすぐに払拭するわけではない。むしろ子どもの安全を考え、手順をしっかりと行い、安全を確保して活動開始した方が有難い。病棟では、安全安心なボランティア活動を待っている。プレッシャーが大きい中での活動再開になる。普通の一般の人が、この新型コロナの状況下で活動する。これ迄当たり前前に病棟に入っていたが相当敷居が高くなっている。「安全安心」は、新型コロナに始まった事ではない。病院はいつだって決してきれいな場所ではない。多くの方の努力で初めて確保され、こどもたちが守られているのである。

ボランティアコーディネーター加藤



お知らせ

10月5日(月曜日)ボランティア研修会を開催します。13時から講堂です。

感染制御室の方に、「感染対策。安全安心なボランティア活動の為に(仮題)」の講義をお願いいたします。各グループからの参加を募ります。オンライン参加も可能です。